

講義名: 法学B 04<秋> ナンバリングコード: LAW1000  
曜時1: 火4 曜時2:  
担当教員名: 薄木 公平

研究室: 兼任講師控室 オフィスアワー: 授業前後 メールアドレス:

授業形態  
『講義』 『実務経験のある教員による授業①(現役の行政書士・社会福祉士が基礎法学を解説する講義である)』 『実務経験のある教員による授業②(認定社会福祉士の取得のために行う基礎研修で、法学関係の基礎講義を行っている講師が担当する)』

講義・演習概要  
この講義では、受講者に現代日本法の概観を前提に、市民の社会生活に関連の深い分野について基礎的な知識を講述する。そこで、まず現代日本法を三大別し、公法分野(憲法、刑法、国際法等)、私法分野(民法、商法等)、社会法分野(労働法等)につき略説する。以下、[講義計画]に則って授業を進めていく予定である。なお、私語は厳禁。その他、受講時の留意事項について最初の授業時に言及する。

学習(到達)目標  
福祉における相談援助活動と法(日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む。)との関わりについて学び、基本的な人権感覚を養う。基本的知識をふまえた上で、権利擁護の制度として成年後見制度の実践について理解する。  
①社会生活における法の作用や役割について理解する。  
②日本国憲法の基本原理、民法および行政法の基礎を理解する。  
③相談援助活動において必要となる成年後見制度(後見人等の役割を含む。)について理解する。  
④社会的排除や虐待などの権利侵害や認知症などの日常生活上の支援が必要なものに対する権利擁護活動の実践について理解する。基本的人権、権利擁護、成年後見制度等社会福祉士に必要な内容について理解させるよう留意する。

講義・演習計画	
【第1回】 社会生活と法①	
【第2回】 社会生活と法②	
【第3回】 社会生活と法③	
【第4回】 社会生活と法④	
【第5回】 憲法総論	
【第6回】 平和主義	
【第7回】 基本的人権①	
【第8回】 基本的人権②	
【第9回】 基本的人権③	
【第10回】 社会権・財産権	
【第11回】 統治機構①	
【第12回】 統治機構②	
【第13回】 統治機構③	
【第14回】 憲法改正手続き	
【第15回】 その他関連法学	

成績評価の方法					
試験	35%	レポート	50%	その他	15%
コメント	この講義では法の基礎を横断的に理解していただきたいと思います。評価は、遠隔講義で行うということを前提にしています。授業参加状況(積極性等)を15% 講義内で5回出題するレポートを50% 最終講義に行う修了試験を35% 合計100%で行います。				

テキスト			
著書	吉田利宏	タイトル	元法制局キャリアが教える 法律を読む技術・学ぶ技術
ISBN	978-4478065099	出版社	ダイヤモンド社
教科書購入区分	大学オンライン販売	備考	
著書	君塚正臣 編	タイトル	ベーシックテキスト憲法[第3版]
ISBN	978-4589038494	出版社	法律文化社
教科書購入区分	大学オンライン販売	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	

参考文献  
・木村草太「憲法という希望」講談社新書  
・我妻榮「法律における理窟と人情」日本評論社

事前および事後学習の指示 (事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間)  
テキストは2冊とも使用します。参考文献で示している木村先生、我妻先生の本は、読みものとして法を理解するのに大変役れています。できるだけこの2冊は、前期のうちに事前学習として読んでおいてください。

その他備考(担当教員用)

キーワード  
法学・憲法・社会保障・判例

備考(管理者用)

